

2019 年度 教育 研究 活動 報告 用 紙 (様式 9)

氏名	命婦 恭子	職名	准教授	学位
----	-------	----	-----	----

研 究 分 野	研究内容のキーワード
臨床心理学	学校臨床 子育て支援 ストレス メンタル・ヘルス ソーシャルスキル

研 究 課 題
研究課題は大きく3つある。一つはソーシャル・スキルの向上を目的とした親子参加型のプログラムを構築し、実施することである。もう一つは、本学附属幼稚園での発達相談員としての臨床実践とその実践に関する臨床研究である。さらに、2016年度から保育者養成校の学生を対象に学外実習の前後に保育者としての資質の変容があるかについての質問紙調査を実施している。

担 当 授 業 科 目	
障害児保育Ⅱ (前期) こども家庭支援の心理学 (後期) 保育相談支援 (後期) 臨床心理学(カウンセリングを含む) (後期) こども学基礎演習 (通年) こども学特別演習 (通年)	保育実習指導Ⅰ (通年) 保育実習指導Ⅱ (通年) 保育実習指導Ⅲ (通年) 保育所実習Ⅰ (学外実習) 保育所実習Ⅱ (学外実習)

授業を行う上で工夫した事項 (※ 助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項)
授業科目名【 臨床心理学 (カウンセリングを含む) 】 心理臨床の技法と心理アセスメント技法を体験的に学ぶことができるように、ワークや実際の心理検査を取って授業を展開した。また、それらの技法は言語発達が未熟な幼児にも適用できるものを選択し、保育者を指しにとって、自分の将来像と直結しやすい内容になるように工夫した。
授業科目名【 保育相談支援 】 これまでの臨床経験をもとに、架空の事例を作成し、それについて学生自身が自分に出来る対処法を考える授業を実践している。考えた内容については、それぞれの個性が反映されているととらえ、学生の意図を尊重した上でよりよい対処法をさらに考えるような講義内容になるようにコメントを工夫している。
授業科目名【 障がい児保育Ⅱ 】 保育現場で接することが多い発達障害の子どもたちへの支援方法を中心テーマとして授業を構成した。2年生を対象としていることから、指導案の作成や教材作成も取り入れて実践的な内容とした。

学 会 に お け る 活 動		
所属学会等の名称	役職名等 (任期)	加入時期
日本健康心理学会		1997年4月～現在
日本心理臨床学会		1998年4月～現在
日本心理学会		2000年4月～現在
日本行動医学会		2001年4月～現在
日本ストレスマネジメント学会		2002年4月～現在
日本こども健康科学会		2009年4月～現在
日本健康支援学会		2010年4月～現在
日本保育学会		2014年4月～現在
日本生活体験学習学会		2018年11月～現在

2019年度 研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・ 共著の別	発行又は 発表の年月	発行所、発表雑誌等 又は発表学会等の名称	概 要
(著書)				
(学術論文) 保育者養成課程の学生 が持つ子どもの遊び環 境への理解	共著	2019年7月	日本生活体験学習学 会誌	保育者養成課程の学生を対象 に、遊びに関わる資質を明らか にするための尺度を作成し、そ の信頼性を検証した。その結 果、16項目の尺度が作成され、 十分な信頼性が確認された。
幼児におけるソーシャ ルスキルの発達と適応	単著	2020年3月	西南女学院大学紀要	幼児期のソーシャルスキルの 発達と社会適応について検討 した。その結果、幼児期にソー シャルスキルが不足していると ポジティブな仲間関係を形 成しにくく、その後の社会適 応にも影響していた。
(翻訳)				
(学会発表)				

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(1) 共同研究

研究題目	交付団体	研究者 ○代表者（）内は学外者	交付決定額 (単位：円)

外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

(2) 個人研究

研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考

社会における活動等

団体・委員会等の名称 (内容)	役職名等	任期等
日本臨床心理士会会員 福岡県臨床心理士会会員	会員 会員	2002年4月～現在 2002年～2007年、 2014年4月～現在
北方シネマ運営委員会 わかぞのインクルーシブコミュニ ィ構想運営委員会	会員 会員	2017年2月～現在 2018年11月～現在

学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

研究紀要委員 地域連携室室員 内部監査委員 キャンパスハラスメント相談員 附属シオン山幼稚園発達相談員
